

# 札幌学院大学経営論集発刊にあたって

経営学部長 光 武 幸

札幌学院大学経営学部開設にあたって、このたび「札幌学院大学経営論集記念号」が刊行されることになりました。「札幌学院大学経営論集」は、1949年、札幌文化専門学院文泉學會によって刊行された「文泉論叢」に端を発する60年におよぶ長い紀要の歴史の上に存在いたします。

「文泉論叢」に続いて「札大商経論叢」（1950年～1954年）が札幌短期大学文泉學會によって発刊され、「札幌短期大学論集」（1956年～1969年、札幌短期大学文泉学会）を経て、1969年大学の開学にともなって「論集」（1969年～1982）が札幌商科大学学会と札幌短期大学学会によって刊行されました。この間に「論集」は、人文学部の開設にともなって1977年に「論集・商経編」と「論集・人文編」に分離して刊行されるようになります。1979年以降は短期大学の廃止により「論集・商経編」は札幌商科大学学会によって刊行され、1982年には「札幌商科大学論集・商経編」（1982年～1984年）と名称変更されました。1984年、札幌商科大学が札幌学院大学に校名変更後は、「札幌学院商経論集」（商経学会発行）となり、2009年3月発行の論集において第25巻、通巻91号になります。この間、1992年に経済学部の開設によって商経学会は商学会と経済学会の二つの学会に分離し、共同して商経論集を刊行してまいりました。そして昨年、札幌学院大学総合研究所の設置により、本学の紀要はすべて総合研究所の発行に変わりました。このような変遷をもとで2009年度から「札幌学院商経論集」は「札幌学院大学経営論集」となって新たな論文発表の歴史を刻み出します。

長々と紀要の歴史を振り返ってみましたのは、経営学部開設に至るまでの本学の商学、経営学、経済学の研究・教育の論稿が、本学発展の歴史において極めて大きい役割を果たし、また、それらが本学草創の時期から真摯な研究態度によってもたらされ、学界においても意義深いものであったと思われるからに他なりません。

100年に一度とも言われる今回の不況時に、特に、ファイナンスに対する風当たりが強烈な中での会計ファイナンス学科と経営学科がスタートいたしました。強烈な風当たりは、向きを変えれば強烈な追い風にもなります。マネーゲームに狂奔するファイナンスに背を向け、北海道という地域に似つかわしい経済成長をアシストする本学のファイナンスや経営、会計の研究が、社会から期待されているような気がしてなりません。過去に経験したことのないような世界が目の前に押し寄せ、畏怖の念さえ持つような時代です。しかし、この時こそ、先を見越しての研究が必要とされるのではないかと考えます。これまでの蓄積された多様な研究成果を糧に、札幌学院大学経営論集がより一層研究・教育を推し進めるためのよすがとなることを期待して止みません。また、記念号発刊にあたり、寄稿を御快諾いただきました諸先生方には、この場をお借り致しまして心より御礼申し上げますとともに、末永く本学経営学部にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。